



青山由紀先生の国語教室―書写編―

見つけて、遊んで、筆使いを確かめよう



はね



はらい

一学期に平仮名を学習した一年生。二学期に

になると、書く分量も増え、筆使いへの意識が薄くなる子どももいます。ここでもう一度、筆使いをおさらいするために、楽しみながら取り組みめる授業を、青山先生にご提案いただきました。国語の「たのしいな、ことばあそび」(一上102ページ)と関連させた、書写の授業です。

授業リポート (1時間)

①平仮名表を見て、「とめ」「はね」「はらい」「むすび」のある字を見つける

授業が始まると、青山先生は黒板に「ネコ忍者」のイラストを貼りました。(教科書には、「とめ」「はらい」などの筆使いを表すネコが登場します。それを黒板の文字の大きさに合わせて拡大コピーしたものです。)

子どもたちは「すうちゃんだー!」「びたっと忍者だー!」と大喜び。前時までネコ忍者を使っ

者が大好きです。

教科書の平仮名表を開いてから、先生が、「びたっと忍者(とめ)」が使われている字はどれかな。」と問いかけました。子どもたちは楽しそうに、「とめ」のある字を探し始めます。見つけた字はまず全員で空書きし、その後、先生が黒板に字を書くのに合あわせて、「びたっ!」と声に出し、「とめ」の位置を確かめます。「はらい」「はね」「むすび」が使われている字も同じように確かめていきます。特に「むすび」は、「よこなが」と「たてなが」の形に分けて、丁寧に確かめます。

前時までに学習した字が子どもたちから出るといいなと想定しながら進めました。時間に余裕があれば、まずは平仮名表に丸をつけ、それから筆使いごとに分類して書くようにすると、書くことに抵抗のある子どもスムーズに取り組めます。(青山)

と声を掛けます。

「先生に見てもらおう」という意識をもたせ、子どもたちに声掛けすることで、筆使いに気をつけて書く必要感をもてるようにしました。(青山)

見つけた言葉を丁寧に書く子どもたち。先生は、「次の時間にノートを見せてください。」と伝えて、授業を終えました。

青山先生より

今回は、「言葉見つけ」の前に、筆使いを丁寧に扱い、ただ見つけた言葉を書くのではなく、筆使いに気をつけて書くことができるよう、授業を組み立てました。

低学年はコレクター気質。たくさん見つけて集めるのが大好きです。集めると、今度は整理したいという気持ちが出てくる。多少間違ってもいいので、字を見つけて整理することに、楽しく取り組めるようにしました。「言葉見つけ」の問題にも夢中で取り組み、授業後も、さらにたくさん言葉を見つけてノートに書く姿が見られました。

とめ	そてえきのたな	な	か	ま
はね	はたな	さ	か	ら
はらい	すれ	ろ	め	や
むすび	よ	す	ま	る
	は	む	あ	お

青山先生が作成したワークシート

②一人の児童が見つけた字を取り上げて、「言葉見つけ」をする

ひと通り筆使いを確かめると、一人の児童が探した十二個の字を黒板に書き写し、そこから作ることのできる言葉を探します。「Fさんが書いた字から、どんな言葉ができるかな。」と先生。子どもたちは、「いし」「かけあし」と、楽しそうに声を上げます。

③「たのしいなことばあそび」の表を配り、「言葉見つけ」をする

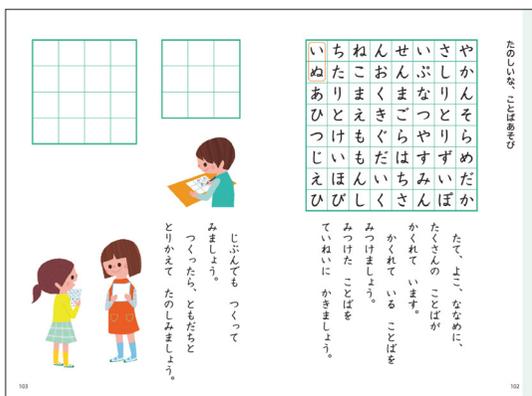
ここで青山先生は、国語の「たのしいな、ことばあそび」のコピーを配り、「すごく難しい今回の授業は一時間だったので、自分で「言葉見つけ」の問題をつくるころまでは取り組みませんでした。問題づくりには挑戦した場合は、「今日の問題は〇〇さん」と、毎日誰かの問題を印刷して配るなどして、「きちんと清書したい」というモチベーションが続く工夫をするとういことです。

書写では、「きれいに書きたい」という必要感や必然性ももてる状況、練習と思わずに練習しているという状況を仕組むようにしています。一つの活動の中に、筆使いの指導、言葉の指導など、いろいろな領域と組み合わせる力を育てていくことが、低学年では特に大切だと思います。



青山由紀 (あおやま・ゆき)

筑波大学附属小学校教諭。日本国語教育学会常任理事。全国国語授業研究会常任理事。著書に『くちばし』『じどう車くらべ』『どうぶつ赤ちゃん』全時間・全板書(東洋館出版社)、『こくごの図鑑』(小学館)などがある。光村図書小学校『国語』書写教科書編集委員。



1年上巻102ページ「たのしいな ことばあそび」